

つなぐ

中央区のすべての子どもたちのために
子どもたちとかかわるすべての方々とともに

中央区
幼保小連携推進協議会便り
2022年6月 No.1
発行 幼保小連携推進協議会
令和4年度代表者会


この便りは、中央区幼保小連携推進協議会にかかわった皆さんが子どもたちの健やかな成長と
そして、すてきな幼保小の連携ができるようにと願い発行されたものです。ご愛読ください。

第1回(5/31日) 幼保小連携推進協議会について

各園・校から1名の参加という制限はあったものの3年ぶりの参集方式での開催となり、幼児教育施設からは40園44名、小学校15校18名計62名の参加がありました。今年度より全区で統一したテーマ「学びをつなぐ幼保小連携・接続」のもと、**知る→学ぶ→つなぐ**ことを目的に実施することになっています。第1回目は、中央区の代表者メンバーでもある“渋谷一典校長先生”（三角山小）による講演を聞き、ブロックごとに(中学校区をベース)協議を行いました。

第1回目の概要をお知らせします。

令和4年度代表者会紹介



三角山小学校	校長 渋谷 一典
札幌大谷幼稚園	園長 渡邊 元
愛育保育園	園長 後藤 克子
札幌大谷第二幼稚園	園長 松田 志穂
市あけぼの保育園	園長 竹内 佳子
市立中央幼稚園	園長 山下 幸子

【講演】 幼保小連携・接続の具体と課題を“知る”



札幌市が作成したリーフレット(左)によると、**子供の発達や学びは幼保小の枠組みを超えて連続していることから、遊びが中心の幼児期の教育と教科学習が中心の小学校からの教育とを円滑につなぐ重要性が一層高まっているとされています。**このことは、学校段階等の都合…言い換えれば指導者側の都合ばかりが優先されることで、**幼児期の育ちや学びが小学校の低学年教育に十分反映されておらず、結果として幼児児童にとって段差の高い接続になっ**
てい

ないかという問題提起であると捉えることができます。そうした背景を踏まえ、これまで、コロナ化に伴う制約がありながらも幼保小の連携に関する取組が推進されてきたところです。

一方で、連携・接続によって期待されていた効果に目を向けると、例えば「入学前後の子供の**情報交換の内実が、学びよりも生徒指導の側面に偏りがちであること**」、「相互理解を図るうえで、その**必要性の根拠となる課題や方向性の共有が不十分**なケースがあること」、「**ポストコロナを見据えた持続可能な子供の交流活動の検討に着手しきれていないこと**」など、推進してきたことで新たな課題も見えてき

たようです。今回の互いに知る機会を通して、これらの課題の解消につながる手掛かりを見出しましょう。

ブロック協議の様子から

講演の内容を受け、ブロックごとの交流では、「①自身が考える連携・接続の課題とその理由」

「②今年度中に実現可能な連携の具体と次年度に向けた展望」を柱に交流しました。

協議の柱① 連携・接続の課題は何だろう？



- ◆子どもの姿の伝えがその子の困り感になりがちだった。その子の長所や効果的だった指導方法などを共有していくことが必要。指導要録をもっと活用できるとよいのでは！
- ◆5歳児の育ちの何に重点をおいて伝えたらよいのかが分からない。
- ◆交流がもてず、その後の育ちの検証の機会が無くなってしまったことが残念…コロナ禍のような状況でも連携できる方法が生み出せるとよいが…



- ◆子どもの苦手なことのみを知ろうとする傾向があった。良い面を伝え合い、入学後も伸ばしていこうという考えで情報交換が必要ですね！
- ◆各園からの情報をできる限り生かしながら対応しているが、多くの園があり、教育や指導の考え方も様々…
- ◆各園の指導上大事にしていることを知ることが必要なのではないか。
- ◆学校を知ってもらう機会をつくることが引き続き必要！

協議の柱②今年度すぐ実行したい連携・接続は？ 来年ならできることは？

★職員による授業参観(年間を通して)

★園児の、保護者の「知りたい!見たい!小学校の動画」を作成し見合う

★ビデオレター、オンラインでの子ども同士の交流

★子どもの引継の内容にひと工夫

(良い面を伝え合おう! 指導要録も活用!)

★学校探検 ★1年生の活動や発表を園児が見学

すぐにできそうなことは何？



アンケートより ～園も学校も、お互いつながり合いたいと思っていた!～

参加された皆さん全員が今回の協議会の内容について「とても満足」「概ね満足」という回答でした!



- ◇現状と課題が共有できて有意義だった!
- ◇小学校以降の学びの土台につながるものが理解できた。子どもの心を育てる保育を心掛けたい!
- ◇出来ることから踏み出してみたいと思った!
- ◇幼児期の遊びが自信や安心につながることを再確認できた。

- ◇幼保の子どもへの願いを大切にしたい取組を知り、自身の取組を振り返ることができた。
- ◇幼保側の連携に対する意識や小学校に対しての要望を知ることができた。
- ◇一貫性の教育活動について共有できた。
- ◇実現可能な連携について話し合えた。
- ◇まずは“つながる”ことが大事!



実際に対面して、地域にある園や学校の窓口となる園・学校先生たち同士で互いの顔や名前を知り合えたことも何よりの成果だったようです。次回(10/19日)は「学ぶ」をテーマに連携・接続について深めていけることを期待しています。